

授業と評価の年間計画

| 教科               | 地理歴史  | 科目  | 世界史B   |  |
|------------------|---|---|--|--|
| 履修条件<br>対象生徒     | 必修<br>普通科（文型） 2年  |   |  |  |
| 学習目標             | 世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付ける。  |   |  |  |
| 学習方法             | <p>【授業】<br/>教科書（山川出版社）と授業プリントを中心にして展開する。単に暗記するのではなく、歴史の流れや同時代史的な横のつながりの把握、歴史的意義の理解が重要である。</p> <p>【家庭】<br/>教科書の授業範囲にしっかり目を通すこと。また、問題集に自主的に取り組み、理解していない箇所を確認すること。</p> <p>【補習・その他】<br/>補習は授業を進める。世界史の内容をあつかったテレビ番組や映画の視聴も理解を深めることに役立つ。</p> |   |  |  |
| 学習計画<br>と<br>ねらい | 1 1学期   | (1) 中間検査まで<br>ア 先史の世界<br>イ オリエンと地中海世界<br>(ア) 古代オリエンと世界<br>(イ) ギリシア世界<br>(2) 期末検査まで<br>ウ ローマ世界<br>エ アジア・アメリカの古代文明<br>(ア) インドの古代文明  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の誕生以降の先史世界を理解する。</li> <li>・文明発祥の地であるオリエンと地中海に成立したギリシア・ローマ文明、及びその交互の関わりについて考察する。</li> <li>・南アジア、東南アジアの風土・自然を理解し、そこに成立した文明について学ぶ。</li> </ul>   |  |
|                  | 2 2学期   | (1) 中間検査まで<br>(イ) 東南アジアの諸文明<br>(ウ) 中国の古典文明<br>(エ) 南北アメリカ文明<br>エ 内陸・東アジア世界の形成<br>(ア) 草原遊牧民・オアシス定住民<br>(イ) 北方民族の活動と中国分裂<br>(ウ) 東アジア文化圏の形成<br>(2) 期末検査まで<br>オ イスラーム世界の形成と発展<br>(ア) イスラーム世界の形成<br>(イ) イスラーム世界の発展<br>(ウ) インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化<br>(エ) 西ヨーロッパの中世文化<br>カ ヨーロッパ世界の形成と発展<br>(ア) 西ヨーロッパ世界の成立<br>(イ) 東ヨーロッパ世界の成立 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国文明の成立と発展を理解する。</li> <li>・南北アメリカ文明について考察する。</li> <li>・魏晋南北朝以降の中国史を理解し、我が国に与えた影響について考察する。</li> <li>・文明が交錯した場としての内陸アジアの歴史的意義について考える。</li> <li>・イスラーム世界の自然・風土とその発展を理解し、イスラーム世界の多様性について考察する。</li> <li>・ヨーロッパ文明の成立と発展を学び、現代の文明について考察する。</li> </ul> |  |
|                  | 3 3学期   | (1) 学年末検査まで<br>(ウ) 西ヨーロッパ中世世界変容<br>(エ) 西ヨーロッパ中世文化<br>キ 内陸アジア世界・東アジア世界の展開<br>(ア) トルコ化イスラーム化の進展<br>(イ) 東アジア諸地域の自立化<br>(ウ) モンゴルの大帝国  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宋代以降の東アジア文化圏の統合がゆるんだ時代について複数の周辺民族を事例に考察する。</li> <li>・その集大成として登場したモンゴル族が構築した大帝国について学ぶ。</li> </ul>   |  |
| 評価規準             | 関心・意欲・態度  | 思考・判断   | 技能・表現  | 知識・理解  |
|                  | 現代の世界が形成されるまでの歴史的過程を意欲的に追究し、国際社会に生きる日本人としての責任を果たそうとする   | 現代の世界が抱える諸問題の歴史的背景を、因果関係を踏まえて適切に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。   | 年表や資料、地図など、歴史的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を取捨選択することを通して、現代世界が抱える諸問題を適切に表現する。  | 現代世界が形成されるまでの経緯や現代世界が抱える諸問題の歴史的背景を理解し、その追究の方法を理解し、身に付けている。 |
| 評価方法             | 定期検査や課題検査の成績を重視するが、授業における課題等の提出状況や出欠状況、授業態度も含め、総合的に判断して評価する。  |   |  |  |
| その他              | 史料（資料）を用いた学習、主題を設定し追究する学習を実施する。実施時期については授業で指示する。<br>センター試験では、歴史の流れや歴史上の意義を理解していなければならない。そこで、図説の写真や地図、教科書の脚注や史料にも注意を払わなければならない。  |   |  |  |